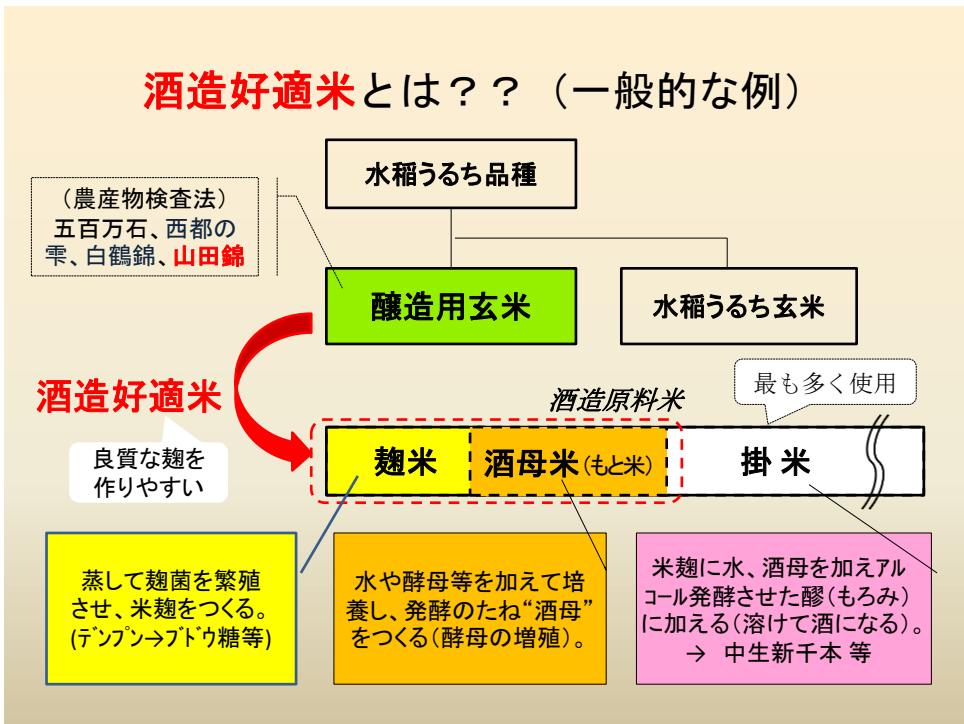


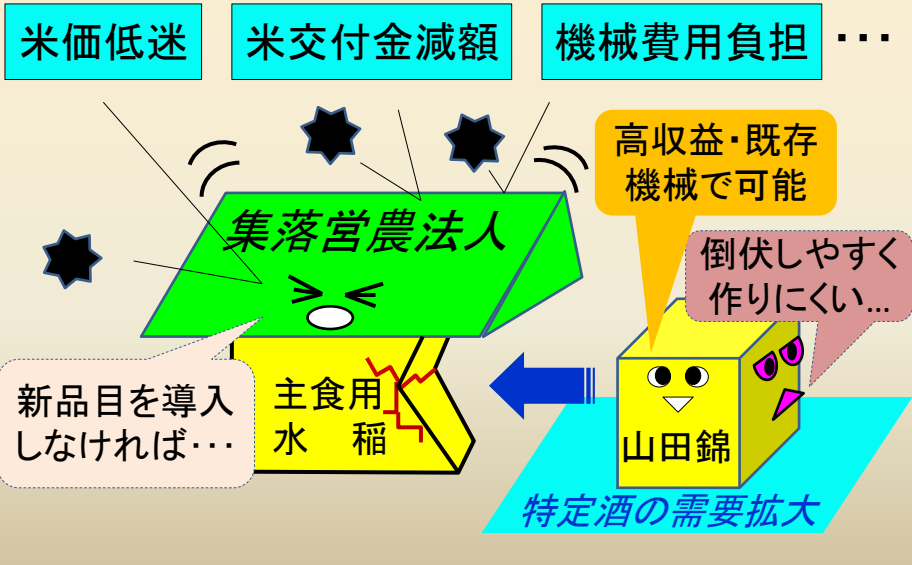
酒造好適米「山田錦」の生産振興



酒造好適米とは?? (一般的な例)



1 背景



倒伏しやすい「山田錦」

稈の太さ・剛柔は“中”であるが、長稈のため倒れやすい。



山田錦



ヒノヒカリ

品種名	稈の		耐倒伏性
	細太	剛柔	
山田錦	中	中	弱
西都の雫	中	剛～中	やや強
ヒノヒカリ	中	中	強
コシヒカリ	中	やや柔	弱

〔資料提供：県農技C
土地利用作物研〕

酒造好適米の流通ルート

Aルート

生産者 → JA → 全農 → 酒造組合 → 酒造会社

Bルート

生産者 → JA → 酒造会社

Cルート

生産者 → 酒造会社

● 県内の酒造好適米生産状況 (H26年 8農林把握分)

農林	岩国	柳井	周南	山口	美祿(宇部分)	下関	長門	萩
Aルート (酒造組合-全農, JA)	○		○	○		○	○	○
面積	1~2ha		2ha	44ha		40.5ha	4.7ha	約8ha
品種	山田錦 西都の雫		山田錦	山田錦31ha 白鶴錦12ha		西都の雫	山田錦4.5ha 白鶴錦0.2ha	山田錦
Bルート (酒造会社-JA)				○				
面積				1ha				
品種				山田錦				
Cルート (酒造会社直接取引)	○	○	○	○	○(一部JA)	○	○	○
面積	不明	約9ha	0.6ha	約41ha	1.5ha	0.4ha	1~2ha	約1ha
品種	山田錦	山田錦	山田錦	山田錦	山田錦	山田錦	穀良都	山田錦

実需者との
連携強化

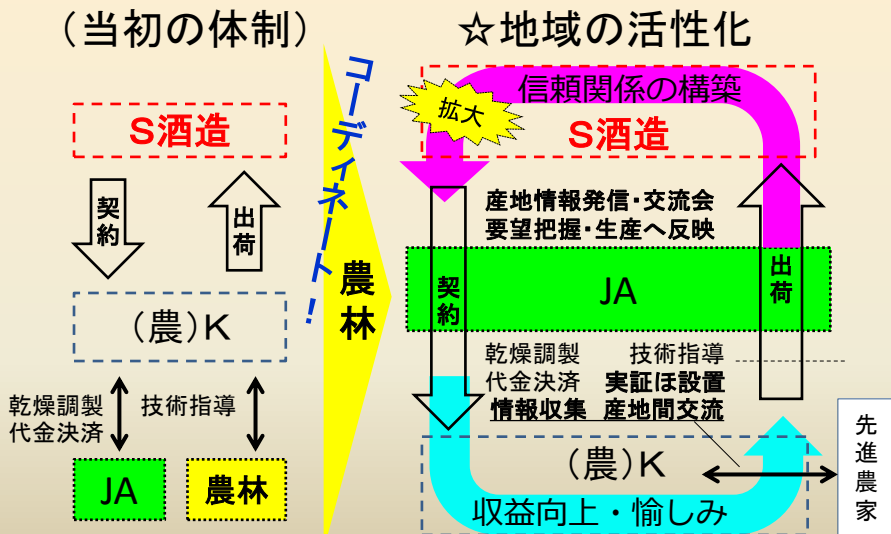


(農)K

取組のきっかけ((農)K組合長談)

- ・「山田錦」はS酒造から直接、打診があった。
- ・組合員の所得向上を目的に取り組むことに。
- ・販売、乾燥調製や検査等についてJAに相談。
- ・高品質、収量確保対策について農林に相談。

活動のねらい



2 活動の内容

(1) 先進農家との連携強化

(2) 栽培技術の実証

(3) 酒造会社との結びつき強化

(1) 先進農家との連携強化

○先進事例調査

- ・同様な沿岸部で20年間「山田錦」に取り組む篤農家(山陽小野田市;I氏)を訪問
- ・栽培技術とともに“酒造会社とのより良い付き合い方”を学ぶ

○産地間交流

- ・篤農家I氏を法人実証ほかに招聘
- ・近隣「山田錦」生産者らと情報を共有化

篤農家I氏の金言

- ・ 倒伏させぬよう、なるべく風当たりの弱い山陰ほ場で
- ・ 植付2～3本/株、かぎ取り量は最少で設定し徒長を防止
- ・ 入水に窒素が含まれる可能性があるなら無施肥が無難
- ・ 肥料を控えればタンパク下がり、病虫害の発生も少ない
- ・ 水管理は最重要、過繁茂なら中干しを10日間行うことも
- ・ 収穫後は胴割れ回避のため0.5%/hでゆっくり乾燥 など

管内沿岸部初の「山田錦栽培方針」づくりへ

(2) 栽培技術の実証

○目標

- ・ 品質確保のため倒伏を回避
- ・ 収量は360kg/10a 以上
- ・ 外観品質は農産物検査「1等」 以上
(区分は特上、特等、1～3等、規格外の6段階)
- ・ 玄米タンパク含量7.4%未満

○取組(実証ほ1ha)

- ・ 状況に即した栽培管理(無施肥、水管理の徹底等)
- ・ 生育状況の適時調査、迅速な伝達と対応



実証ほの経過

○生育調査

目立つ病虫害の発生なし

調査日	7/2 (移植後)	7/25 (分けつ 盛期)	8/1	8/7 (最高分 げつ期)	8/15 (幼穂 形成)
茎数 (本/株)	3.5	11.4	18.4	20.0	-
(本/m ²)	60	195	315	342	-
草丈 (cm)		32	44	57	-
葉令 (L,枚)		7.8	9.3	10.4	-
葉色	2.8	4.0	4.2	4.3	4~4.2

栽植密度
の確保

浅水管理で
分けつ促進

葉色は十分
で追肥不要

有効茎
を確保

軽めの中干
で根域改善

○成熟期調査

調査日	10/14
穂数 (本/株)	16.8
(本/m ²)	287
穂長 (cm)	18.0
稈長 (cm)	88

稈長は短く、倒伏回避

【出穂期の約3週間前】
葉色が落ち始めたが、
穂肥は省略可能と判断

(3) 酒造会社との結びつき強化

○栽培検討会

- ・S酒造部長を招聘し、栽培状況を説明
- ・要望品質、連携方法等について検討

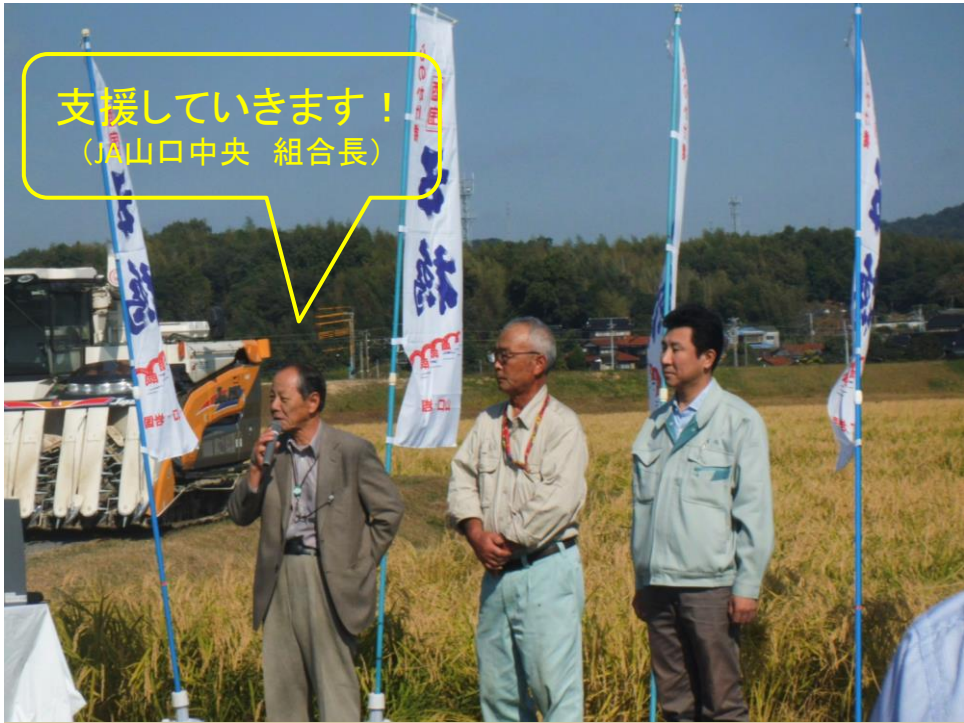
○収穫交流会

- ・S酒造社長をほ場に招聘
 - 生産物を確認、収穫作業も体験
- ・初の試みとして、メディアに情報発信
- ・今後の取組について意見交換

10/24 収穫交流会

(関係者 約30名)





実需者（S酒造社長）インタビュー

Q. 酒米は不足しているの？

A. 多くの日本酒は、実は飯米品種で作っています。「山田錦」などの酒造好適米は、一部の大吟醸・純米酒等の特定名称酒に使います。

近年、この高価格帯の特定名称酒の需要が拡大して、「山田錦」の需給が逼迫しています。

Q. では、生産量を増やしたら買ってもらえるの？

A. 品質が一番大切です。毎年、少しずつ量を増やしながらの、末永いお付き合いを希望します。



- 倒さないよう気を遣った
- 目標どおりの出来映え

おいしいお酒が飲みたい
新酒を飲みに行きたい
それが“夢”



- 急な拡大は互いのリスク
- 少しずつ増やして欲しい
- 末永く、お付き合いを…

2月に酒蔵に来て下さい。
皆さんのお米で作ったお酒
が多分、出来ていますよ！

3 成果

1. 先進農家との連携強化

倒伏させぬ管理(無肥料+浅水後の中干等)

2. 実証ほの成績(目標達成)

収量372kg/10a、品質「特等」、タンパク6.9%

沿岸部「山田錦」
の栽培方針づくり

3. 酒造会社との結びつき強化

契約面積1ha→次年度3ha

契約3倍増！

地域の活性化

4 今後の活動

○法人経営への定着促進

- ・求められる品質と量の確保
- ・需要と連動する計画的生産
 - 酒造会社と緊密に連携し、生育状況や需要量について随時、情報交換
- ・リスクマネジメント(最適な取組規模の検討)

○産地づくりと実需者との連携強化

- ・酒造会社と産地の交流会、情報発信
- ・他生産者との連携(産地づくり) など

おわりに…

○種子の問題

- ・県内種子産地(山口市徳地)の高齢化
- ・自家採種由来「山田錦」品質、検査体制

優良種子の安定供給手段を！

○需給調整の問題

- ・特定名称酒の需要増減
- ・主食米の需給、価格変動

生産と需要を包括的に調整する仕組みを！

